

長崎県幼児教育センターだより

No. 23 2026. 1. 30



今年もよろしくお願いいたします！

長崎県幼児教育センターとして、3回目の新年を迎えました。訪問支援や研修支援への依頼を多くいただき、各園の先生方と一緒に保育の質向上に向けて一步一步あゆみを進めていることを実感しております。

さて、現在、国では次期要領・指針の改定に向けた検討が進められています。これまで様々な議論が交わされていますが、「幼児教育と小学校教育の相互理解の重要性」や「幼児期に多様な動きを経験し、小学校以降の体育の学びにつなげていくこと」など、幼保小接続についても話題に上っています。長崎県では、幼保小連携推進協議会の設置や架け橋期のカリキュラム作成など、幼保小連携に向けた取組が各市町で行われており、切れ目のない支援が進んでいることを実感しています。

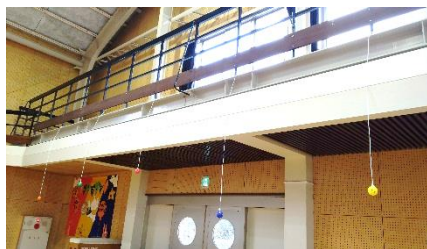
令和8年も、「こどもを真ん中にした支援」を実現できるように、県内の幼児教育関係者の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

学校をプレイパークに



長崎県教育庁体育保健課では、子どもの体力向上に向けた取組を行っています。取組の一つに、「学校をプレイパークに！」を合言葉として、子どもが思わず体を動かしたくなる場の設定を行い、日常生活の中での体力向上を図るというものがあります。地面に丸を描いて、「けんけんぱ」ができるようにしたり、倉庫の壁に点数が書かれた的を描いて、ボールを投げて遊ぶことができたりするなど、思わず体を動かしたくなるような環境設定を学校のあちらこちらにするのです。長崎市立城山小学校では、新体力テストの課題を受けて、伸ばしたい能力に沿った場づくりとして、「ケンケンウォーク」「あくりょクレーン」「惑星ジャンプ」といった思わず体を動かしたくなるような場を設定していました。

「ケンケンウォーク」は、思わずけんけんぱをしたくなるように場づくりをしています。置いている輪の外側に、細長い直線が引かれています。直線と直線の間には間隔があいていて、大きくジャンプする運動ができるようになっています。行き着く先にはトイレがあり、体を動かして楽しみながらトイレに行くことができるようになっています。「惑星ジャンプ」では、体育館のギャラリーから吊るした長さの違うロープの先に小さなボールが結び付けてあります。子どもたちは一番高いところにあるボールに触れたいと挑戦するのではないのでしょうか。



このような取組は、幼児教育の「環境を通して行う教育」に似ています。「学校をプレイパークに！」の取組が広がれば、運動面のスムーズな接続につながり、子どもの体力向上にもつながるでしょう。幼児教育でも、子どもたちが主体的に遊びだしたくなるような環境設定や工夫を続け、幼児期運動指針に書かれているような多様な体の動きを思わずしたくなるようにしていきたいものですね。

【参考】[幼児期運動指針ガイドブック：文部科学省](#)

園内での子どもの事故について

園内での子どもの事故について、県に報告があがることがあります。園では、子どもの事故防止のために、対策をいただいています。しかし、事故防止のために、遊び場を過度に制限したり、きまりが多くなったりしすぎると、子どもの自由な遊びが制限されることも考えられます。

「学校をプレイパークに」の中でも触れましたが、子どもたちが思わず体を動かして遊びたくなる環境づくりに努めていただき、安全面の確保につながる工夫を考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(文責：小林 真実)

「音」という環境

「環境を通して行う教育・保育」と言われているので、先生方は環境を大事にしていってほしいです。「音」も環境の一つです。今回は音環境について保育を振り返ってみたいと思います。

●歌の伴奏

伴奏には、ピアノやキーボード、CD などスピーカーから流す音、など選択肢があり、それぞれの良さがあります。ピアノやキーボードは「子どもに合わせやすい」良さ。ゆっくり弾くこともできるし、途中で止めたり、もう一度繰り返したりすることもできます。スピーカーから音楽を流すと、先生の手が空きますから、身振り手振りや踊ることもできます。ねらいに応じて使い分けていってほしいです。その時、意外と気付にくいのが「音の大きさ」です。慣れてしまうと感じにくくなるのですが、園を訪問すると、大きすぎる場所と、ちょうどいい場所とあります。歌の時に大事にしたいのは、歌声。先生や子どもの歌声がよく聞こえるように、伴奏の音は控えめが良いようです。時には先生同士で音の大きさに注意して聞いてみてください。

●BGM

時々、BGM が流れている園があります。音楽によって楽しい雰囲気を醸し出す、自然に多くの歌を耳に入れる、など流す目的があることと思います。でも、その場面で本当にその音楽が流れていた方がいいのかどうか、一度考えてみられてはいかがでしょうか。

例えば BGM が流れている飲食店で、一緒に食事をしている人との会話がしにくい、または、声が大きくなる、などという経験はありませんか？

園で大事にしたいのは、子どもの声やつぶやき、子ども同士の会話、子どもと先生の会話、先生の温かな声です。また、過敏さを抱えている子どもにとって、様々な音が集中しにくさやイライラの原因になる場合もあります。

「踊りたい子どものために」、「お昼寝前に静かに落ち着いた雰囲気を出すために」、など、BGM を流す目的を今一度振り返り、必要がないと思ったら思い切って消してみられませんか？

(センター長 室野)